

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 和泉市

実践研究校名 南池田中学校

【公開授業】公開日 : 平成26年1月21日

対象学年 : 2学年

(教材・教科書名) SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 (単元名) PROGRAM 10	(本時の指導の目標) ○比較級を用いて、まとまりのある内容で表現する ○プレゼンやその他のやりとりにおいて、間違うことを恐れずに話す ○発表を聞いて、その内容を把握する
--	---

(本時の授業において工夫した点)

- ・ 日常会話でもよく使う「AとBとどちらが好き？」という表現を用いてお互いにインタビューすることにより、英語でのやりとりに抵抗がある生徒にも、自信をもって英語を使うことができるように指導。
- ・ Show & Tell の形式で発表させることで、英語で簡単なプレゼンテーションを行うことができるように授業を計画した。

(授業後を終えた教員の感想)

- ・ ALT が欠席のため、予定を若干変更する必要があった
- ・ 進行がうまくいき時間的に余裕があったが、発表の工夫、聞き手の態度などさらに指導できる余地があった。

【研究協議会】

(テーマ) 英語での「発信力」の土台となる授業づくり ～「英語を使うなにわっ子」育成プログラム冊子の活用	(指導・助言者) 和泉市教育委員会 指導主事 大橋 敏宏
--	------------------------------------

(研究協議会で出された意見)

- ・ 本時に至るまでの過程で、プレゼンテーションの仕方を教えるべきではないか。
(英語の原稿を読む姿が目立ったので、指し棒などの小道具を使用したり、聞き手に伝わるよう、声のボリュームやトーンなど細かい指導があればよかった)
- ・ 発表が聞きづらいグループもあったので、聞き手にどんなことを発表していたか、確認があればよかったのではないか。
- ・ 自分の授業であれば、ペアーやグループワークで終わっている内容であるが、プレゼンテーションさせて、みんなで集めた情報を共有できる活動であったのでよかった
- ・ 緊張感を持たせるためにも、グループの全員が発表できるように指導し、番号札など

で、発表者を決める方法などもとれたのではないか。

(まとめ)

1. アウトプット活動をプレゼンテーションに設定したことで、新しい表現や既習事項を活かすことができる授業を計画できる。
2. 単元で評価の観点や評価する技能、評価方法を考え、バックワードで毎時間の授業を考える。
3. プレゼンテーションにおいて、話し手、聞き手のどちらを評価するのかという点を考慮して、課題設定を行う。